

編輯室より

〇：昨年来私が戯を叩いて苦言を呈したの
 斯道人諸君の淨瑠璃の觀念である、即ち淨瑠
 璃をして遊戯の對象となす勿れ、といふこと
 を不遜を顧みず屢々論じたのである。今や吾
 々の魂は何れに置くか？それは常在在戰場の
 他には無い、忠勇義烈の皇軍神兵各位は征野
 に馳驅し頑敵撃滅のために一命を國家に捧げ
 大君の御楯として大東亞建設のために偉大な
 礎石となられてゐるではないか。或は又、
 老若男女を問はず産業の戰士として戦力増強
 に猛進されてゐるのではないか。
 〇：勝ち抜かんが爲めには一切の犠牲を惜ま
 ない、況んや道楽や趣味などと口にするだに
 憤まねばならぬ、道楽を對象とする物見遊山
 や藝事の稽古すら排撃すべき今日である遊蕩
 兒が紅燈綠酒の陰に清元を喰ひ常磐津を口に
 し俗謡を吟ずるなど。時局を辨へざる狂人の
 沙汰である。然し如何に戦時とは言へ、文化
 の興隆を否定することは出来ない、殊に藝術
 を媒體とする文化の向上進歩は國威を宣揚す
 るために大なる貢獻を爲すものである。故に
 藝術を研究することは、藝術文化を研磨する
 のであるを忘れてはならぬ。遊蕩兒の遊興三
 昧と同一視する勿れ
 〇：日常の業務、風俗、服裝、飲食、娯樂の
 他總てが戦争状態決戦態勢となつたが此の中
 に於て道義感念の旺盛なるを福井縣大鳥羽の
 敬老會の如きは時局下歡迎の大團であり之に
 出演したる稻垣義豊、下瀬千里兩君の犠牲的
 態度、淨瑠璃奉公の精神は採點熱狂者に一滴
 の汗でも頂かせたい程尊敬なものであつた。

淨瑠璃雜誌 第四百二十四號

(昭和十九年十月號)
(毎月一四二日發行)

本誌 一冊 部 金六圓十錢(郵税共)
 定價 十二部 金七圓二十錢

御注文は一切前金の事

雜誌發送を以て領收證に代ゆ

外國送りは一冊に付郵税十錢を要す

振替は浪花名物淨瑠璃雜誌社

口座大阪二二九二八番

廣告料

普通 一行 金五十錢

二等 一行 金三十圓

一等 一行 金五十圓

特等 一行 金五十圓

の特約には割引す

〇製版を要する時には其實費を申受く

〇廣告料は總て前金の事

〇一行九ポイント活字

大坂市西區千本通ノ三三
 編輯人 樋口虎之助

大坂市西區日本橋筋ノ四三
 印刷所 三浦印之助

大坂市西區日本橋筋ノ四三
 印刷所 三浦印之助

大坂市西區千本通ノ三三
 發行所 淨瑠璃雜誌社

日本出版會々員番號 二二二、〇二七號

主幹 樋口虎之助

主幹 樋口虎之助

森 祐 齋 香 鴻 山 野 梅 成 中 中 辻 武 高 太 吉 大 西 林
 藤 池 本 間 本 瀬 野 西 部 智 安 宰 永 西 村
 田 西 幸 修 光 重 無 孝 太 鐵 吸 施 孝 重 紫
 ほ 清 二 幸 修 光 重 無 孝 太 鐵 吸 施 孝 重 紫
 の 二 幸 修 光 重 無 孝 太 鐵 吸 施 孝 重 紫
 雄 郎 精 武 二 辰 信 極 一 郎 郎 二 江 門 雄 孝 紅 雄